

能登北部における取組み

能登北部糖尿病重症化予防連携部会
公立宇出津総合病院 吉倉 昌平

能登北部圏域の医療資源



<珠洲市>

- 珠洲市総合病院(2回/週)
- 8診療所(眼科1含)
- 5歯科診療所

<能登町>

- 公立宇出津総合病院(2回/月)
- 7診療所
- 5歯科診療所

<輪島市>

- 市立輪島病院(5回/月)
- 17診療所(眼科1含、皮膚科1含)
- 12歯科診療所

<穴水町>

- 穴水総合病院(4回/月)
- 6診療所
- 4歯科診療所

能登北部の糖尿病療養指導体制

	輪島市	珠洲市	能登町	穴水町
日本糖尿病療養指導士	公立病院 10人	公立病院 6人	公立病院 1人	公立病院 1人
石川CDE	病院 3人 開業医 1+2人(歯科) 行政 0人 計 6人	病院 21人 行政 4人 計 25人	病院 12人 行政 1人 計 13人	病院 5人 行政 0 計 5人
保健(行政)スタッフ	保健師 4人 管理栄養士 3人	保健師 5人 管理栄養士 2人	保健師 5人 管理栄養士 3人	保健師 4人 管理栄養士 2人

能登北部糖尿病重症予防連携部会

(医師会長・能登北部保健福祉センター4公立病院・行政(2市2町))

【能登北部全体の事業】

- 能登北部糖尿病重症化予防連携部会
- 能登北部糖尿病重症化予防事業
研修会 活動報告会

【市町単位の事業】

行政単位で糖尿病対策における
保健と医療の現状・課題・対策の共有

輪島市

輪島糖尿病重症化
予防連絡会

珠洲市

すず糖尿病予防
対策検討会

能登町

能登町糖尿病
重症化予防
連絡会

穴水町

糖尿病重症化
予防部会

能登北部糖尿病重症化連携部会

協議会

担当者連絡会 令和4年9月1日(木)

令和3年度 事業報告

令和4年度 事業計画について

第1回能登北部糖尿病重症化予防連携部会
コロナのため中止

事業内容

研修会

〈日時〉 令和5年2月9日(木) Webセミナー
能登の糖尿病診療を考える会
～DiaMond Seminar in 能登～

〈講演〉

1.「災害時の糖尿病患者をサポートするために備えておきたい
エッセンス～東日本大震災の経験を風化させないために～」

演者:大崎市民病院 糖尿病・代謝内科
副診療部長 薄井 正寛 先生

2.「太っていなくても脂肪筋・脂肪肝になる生活習慣
～新規2型糖尿病治療薬の見解も含め～」

演者:順天堂大学国際教養学部 グローバルサービス領域
教授 田村 好史 先生

活動報告会(予定)

輪島市

医療連携

1. 糖尿病重症化予防連絡会の実施(年1回)
2. かかりつけ医、専門医との連携強化
開業医からの栄養指導受託の実施
3. ハイリスク者への療養指導
 - ①透析予防指導(看護師・管理栄養士)
 - ②院内ハイリスク者の専門医紹介
 - ③外来、病棟での栄養指導強化

啓発活動

1. 世界糖尿病デーの懸垂幕PR(11月)
2. 広報の掲載(令和3年度10月号より継続中)
3. 本庁電光掲示板掲載(11月)

研修会

輪島・穴水地域糖尿病診療セミナー オンライン配信

日時: 令和4年12月6日(火)

1. 「恵寿総合病院での高齢者糖尿病診療の経験」
演者: 董仙会 恵寿総合病院 内科顧問 宮本 正治 先生
糖尿病診療チーム員
2. 「穴水町における糖尿病管理台帳の利用について」
演者: 穴水町いきいき健康課 管理栄養士 角間 仁美 先生

珠洲市

医療連携

1. 特定健診受診後、糖尿病未治療者やコントロール不良者に対して連絡票を発行し、主治医と連携した保健指導を実施
2. 糖尿病連携手帳の活用

行政の取り組み

1. 高齢者世帯や独居高齢者の服薬、食事管理について介護職に対するアンケート調査を実施

啓発活動

1. 世界糖尿病デー ブルーライトアップ(病院)
2. 広報による周知
(糖尿病連携手帳の活用について)
3. 糖尿病教室
新型コロナの感染状況を見ながら開催を検討
4. 病院内での糖尿病啓発ポスターの掲示
5. 糖尿病合併症予防体験入院
6. 住民向け糖尿病講話(予定)
7. 糖尿病予防ウォーキングイベント

7. 糖尿病予防ウォーキングイベント

活動量計を使用した

『歩こう・測ろう健康大会』に併せて実施

- ウォーキング
- 体力測定
- 体組成、血圧、骨密度測定 健康相談

活動量計送信キャンペーン

ウォーキングイベント

体力測定



ウォーキング



ウォーキングイベント

体組成等の測定・健康相談



研修会

糖尿病性腎症重症化予防事業 すずかけカンファレンス

【目的】

特定健診結果がHbA1c7.5以上の珠洲市総合病院を受診している住民を対象に、病院と健康増進センターでデータ、生活背景などの情報を共有する。

多職種で定期的にカンファレンスを開催し、糖尿病の重症化を予防する生活・療養指導に生かし、糖尿病重症化を防ぐ。

珠洲市総合病院での管理中の住民に対し確実に情報提供してもらうことで健診受診率の向上を図る。

【実施日時】 年6回開催

【参加者】

病院 薬剤師 看護師 管理栄養士 社会福祉士
行政 保健師 管理栄養士 事務

能登町

医療連携

1. 能登町糖尿病重症化予防 栄養改善事業
かかりつけ医からの栄養指導受託
実施件数:2件(R4.12月末)

行政の取り組み

1. 受診勧奨および保健指導の実施

糖尿病未治療者であり、HbA1c6.5以上又は
空腹時血糖126以上の方:23名(R4.12月末)

糖尿病治療中であり、HbA1c8.0以上の方:8名(R4.12月)

啓発活動

～地域住民～

1. ヘルスアップ食講座 糖尿病編

「高血糖改善に向けてできることから始めよう」
行政保健師と管理栄養士で実施

日時：令和4年11月29日（火）

参加者：6名

〈内容〉

目標体重で食事量の計算

家庭のお茶碗で自分の主食量の確認など



2. 能登町まちづくり出前講座

生活習慣病を予防しよう：糖尿病編
「高血糖改善に向けてできることから始めよう」

行政管理栄養士で実施

日時： 令和4年11月29日（火）

参加者： 6名



3. 世界糖尿病デーのPR

「広報のと」11月号に世界糖尿病デーと糖尿病に関する記事の掲載

11月14日は「世界糖尿病デー」 全国各地が青い光に包まれます

世界糖尿病デーには青い光をモチーフにした「ブルーサークル」が用いられ、世界中で糖尿病啓蒙に向けたキャンペーンを推進しています。また、11月14日を食む1週間を「全国糖尿病週間」とし、各地で講演会や健康相談、建造物をブルーにライトアップする等の糖尿病啓蒙活動を実施しています。



ホテル宇治駅前ホテルでブルーライトを点灯します

11月14日(日)～20日(土)は全国糖尿病週間です

糖尿病について考え、予防に向けた一歩を踏み出す機会にしましょう。

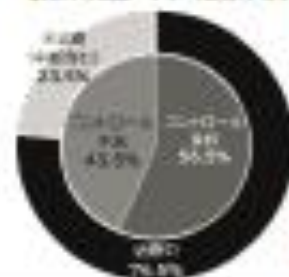
■血糖値が高め？「糖尿病」が疑われたら・・・

糖尿病は、血液中に糖分が異常に多い状態です。この状態が続くと全身の血管や神経を傷つけ、心臓病や脳卒中などさまざまな合併症を引き起こします。糖尿病は痛みなどの自覚症状が少なく、治療を受けないまま重症化してしまう恐れがあります。

令和3年度肥満の特定保健診受診者（40歳～74歳の国民健康保険加入者）のうち、糖尿病で肥満中の方は全体の約1割であり、肥満の基準的とは比べる割合が高い状態です。

特定保健診受診者であり、糖尿病治療中の方は全体の約4割弱を占めていますが、そのうち特定保健診を受診した方は約1割と少ない状況です。糖尿病発症や重症化を防ぐためにも、定期的に健診をしっかりと受け、血糖値が高い状態から食事や運動での生活改善に取り組みていきましょう。

【糖尿病型の人の治療状況等】



（令和3年度肥満の特定保健診受診者より）

「糖尿病型（糖尿病または糖尿病が疑われる人）」とは、
 ・糖尿病治療中の人
 ・糖尿病未治療でHbA1cが5%以上または空腹時血糖値126mg/dL以上

ブルーライトアップ



研修会

第1回症例検討会

〈日時〉 令和5年1月31日(火) 18時～19時

〈講師〉 公立宇出津総合病院 内科 吉倉昌平 医師

〈参加人数〉 19名

行政

公立宇出津総合病院

医学生

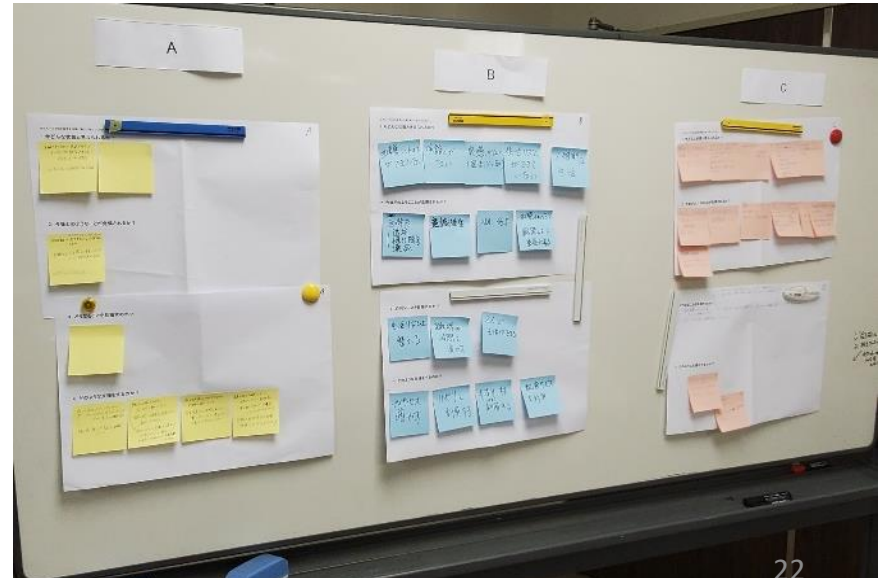
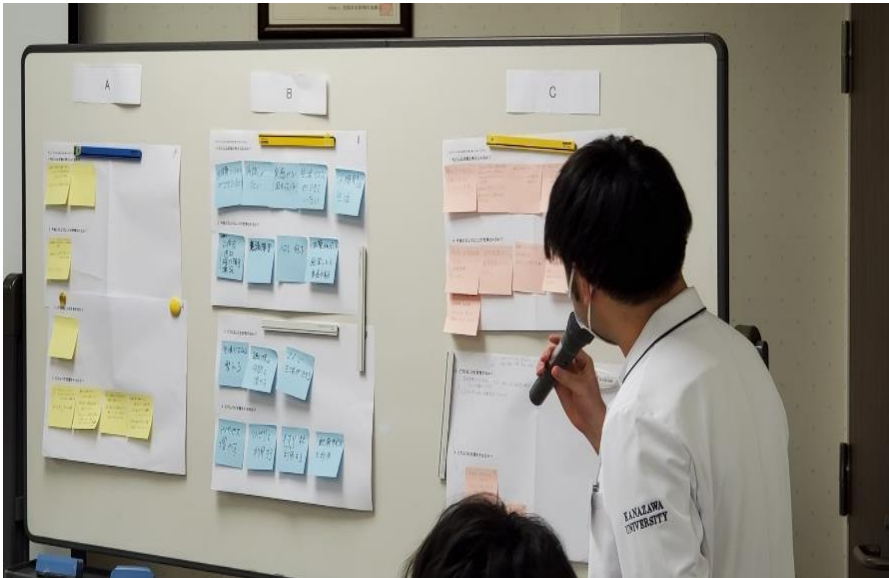
保健師 介護支援専門員

看護師 管理栄養士 事務職員

〈症例〉

高齢男性の糖尿病患者 訪問看護の症例

症例検討会の様子



穴水町

医療連携

1. 行政が穴水総合病院での糖尿病透析予防委員会に参加

啓発活動

1. ブルーライトアップ



研修会

輪島・穴水地域糖尿病診療セミナー

日時：R4年12月6日（火）

1.「恵寿総合病院での高齢者糖尿病診療の経験」

演者：董仙会 恵寿総合病院 内科顧問 宮本 正治 先生
糖尿病診療チーム員

2.「穴水町における糖尿病管理台帳の利用について」

演者：穴水町いきいき健康課 管理栄養士 角間 仁美 先生

〈台帳の利用〉

未治療・未受診者の受信勧告、医療機関受診者への訪問など

能登北部での糖尿病対策の課題

- ① 病院に糖尿病専門医が常勤していない
- ② 不十分な教育体制
糖尿病教室の開催、コメディカルの育成
- ③ 生産年齢層のコントロール不良者増加
保健指導の充実、かかりつけ医との連絡

能登北部での糖尿病対策の課題

④単身高齢または高齢夫婦、認知症患者への対応

多職種カンファレンスでの支援体制充実
保健(行政)との綿密な連携

できるだけ在宅で生活できるように

かかりつけ医、専門医、行政との有機的な連携体制

